

令和 6 年度平塚工科高等学校

第 2 回学校運営協議会

議事録

日付: 令和 6 年 10 月 26 日 (土)

時刻: 13:00～14:00

司会: 教頭

記録: 藤原教諭

出席者

石田会長、宮田委員、室谷委員、坂本委員、井上委員、勝山委員、宇田校長

(欠席) 棟居委員、石井委員、西村委員

参加者 (副校長、教頭、事務長、木村総括教諭、長井総括教諭、田中総括教諭、篠原総括教諭、鈴木総括教諭、秋澤総括教諭、藤原教諭)

校長挨拶

今日は丁度平工祭の第 1 日目と成っています。是非帰りに見学もしていただいて今後の学校評価に活かしてほしいと思います。

校長挨拶

本日は文化祭ということでテーマは「夢を叶えよう」となっている。そのテーマに沿った意見交換ができればと思っている。

学校運営協議会

1. 令和 6 年度学校評価中間報告について (別紙資料)

木村総括教諭 (学事) : 授業評価を今年度から全面的にウェブ上のアンケートとした。結果は 8 割以上の生徒が高評価となっている。1 2 月に 2 回目を行う予定。今後とも改善に向けたとりくみを継続していく。

篠原総括教諭（生徒支援）：昨年度よりも苦情が減っている。まだアンダーパスでの自転車通行についての苦情があったりするが全体としては減少傾向。サポートドッグを行っている。該当する生徒の面談に向けてのスクリーニング会議行い対応している。引き続き連携しながら改善していく。

長井総括教諭（教科外）生徒会行事、部活動を担当している。今日の文化祭は6月の1次企画書の提出から始まり今日形になっている。昨年度からの課題で部活動加入率49%と低いのでHPでの部活動の活動報告を改善した。現在48.9%となっているが、5月には43.8%だった。在籍数との関わりもあるので一概に判断できないが改善に努めていく。委員会活動についても例えば文化祭実行委員会はこれまでに6回、一方で選挙管理委員会は1回とバラツキもある。これからの課題としていきたい。

田中総括教諭（進路）：今年度の進路状況は7割強が就職、3割弱が進学となっている。9月末で90%が内定済み。現在は未定の生徒が会社見学、入社試験に向けて動いている。生徒数の減少の影響で例年お世話になっている会社へ生徒を送れない現状もある。また特性のある生徒も多いなかでミスマッチも危惧されるがチャレンジの意味合いも指導上考えている。今後も希望者100%を目指していきたい。

秋澤総括教諭（総務・環境）：地域との共同ということでは本校と大磯高校、PTA会長を中心に地区大会での発表、文化祭での被災時の自衛隊の炊き出しを行っている。今後についてはPTAのあり方が課題となっている。また8月に防災訓練を実施した。1月に地震津波を想定した防災訓練を実施予定。

鈴木総括教諭（総合技術）：夏季休業中の3日間をあててインターンシップを実施した。8社に22名の生徒がお世話になった。今年度は「就業体験意識が希薄」との指摘を受入企業からいただいた例があった。進路のとの関わりもあるので生徒に対しての意思確認、インターンシップへの心構えの確認など見直していく必要がある。

教頭：事故・不祥事対策について。今年度はともに現時点で0件。今年度オフィス改善の準備がコクヨと連携して進められている。各職員室のプラン案が示され全職員の意見を汲み取りながら進めている。来年度に整う予定。

2. 意見交換

石田会長＞ 中間評価の達成状況のなかで数字が出てくるのがわかりやすく、良い。学習指導に関わって授業評価の好意的な評価が80%を超えているということだが、選択以外にも記述欄はあるのか？

木村総括教諭＜ ある。生徒が記述できるようになっている。

石田会長＞ 記述式の中に重要な内容も入っている。大学での経験上、大事な指摘は抜き取ると良い。

室谷委員＞ 授業評価の回答率は？ ウェブにして下がったなどはないか？

木村総括教諭＜ いま数字で用意していないがあるかもしれない。Class roomによる配信での回答としてたがバラツキがある。紙による配布のほうが強制力があるからか回答率が高かった。

室谷委員＞ 大学ではウェブアンケートにして圧倒的に回収率が下がった。

室谷委員＞ 苦情の数値はどのくらいか？

篠原総括教諭＜ 4月の学校が始まる時期に何件かというレベルだが多い。今後は新しい商業施設ができたのでそれに関わっての案件を懸念している。

坂本委員＞ 苦情について時系列では下がっているというのは学校による指導の成果だろう。一方で、他の項目でもそうだがこれまでの蓄積があるだろうからそれと比較しないとわからない。同じ50%でも増加傾向なのか減少傾向なのかが比較できないのでは？

会社の仕事をやっていてわかるだが、市内の中学校でPTA自体が無くなってきている様子。会報の受注が減少し、あっても父兄が間に入らなくなっている。余分な仕事を減らさないと続いていかないだろう。自治会組織も同じ。

勝山P会長＞ 現在本校PTAでも県高P連から抜けるかを検討中。

井上委員＞ 進路状況については1次の段階は終了し、うまく行っている印象。生徒の質や人数で指導はかわるのだろうか？

田中総括教諭＞ 7：3（8：2）が例年の「就職：進学」の比率。分母（生徒数）が増えれば就職が増えるという傾向も見られる。これまで大卒だけの募集だったが高卒もという会社も増えている。

井上委員＞ インターンシップでは良い生徒さんを送っていただいてありがとうございました。私自身は年齢差の壁を感じる面もあるが、若い従業員同士ではうまく行っている例も見る。

石井委員（メールで）＞ インターンシップの確実な実施により、企業評価の向上とマッチングがうまくいくといい。

教頭＞ 貴重な意見を頂きありがとうございました。今後の学校運営に活かしていきます。

3. その他

* 教員配置についての運営協議会としての教育委員会への質問＞ 別紙参照（7月に回答）

校長＞ 機械科の欠員については11月から対応してもらえる専任が見つかった。家庭科は未だにない。現在は副校長が担当している調理実習についてはプロの調理師（ホテル勤務）に1クラス2時間ずつ実習授業を行った。

今後も配置の要求を弱めることなく行っていく。

次回運営協議会 第3回 3月12日 15時から

閉会